

国際会議 KMI2013—素粒子と宇宙の起源を求めて—を開催

●素粒子宇宙起源研究機構

素粒子宇宙起源研究機構は、12月11日(水)から13日(金)の3日間、理学南館大講堂において、国際会議 KMI2013—素粒子と宇宙の起源を求めて—を開催しました。

同機構では、素粒子と宇宙の2つの分野の理論と実験観測の各グループが、それぞれの研究を深く推し進めるとともに、共通する目的に向かって相互に協力しながら研究を



集合写真

続けています。平成22年の創設から3年半を経過したところで、その成果を広く共有し、残された問題を明らかにしてその問題に対するアプローチを議論する場として、国内外から約80名の研究者を集めて、同会議を開催しました。

会議は、益川素粒子宇宙起源研究機構長による開式の言葉に始まり、機構が推進する研究分野『～格子ゲージ理論、加速器・非加速器素粒子実験、標準模型と新しい物理理論、暗黒物質と宇宙物理、など～』の成果発表に加えて、関連分野で活躍する内外の研究者の発表を交え、活発な議論が交わされました。

また、会議中、同機構の国際諮問委員会が小林 誠諮問委員会座長のもとで開催され、機構のこれまでの活動の評価と将来計画に対する助言とともに、主に海外から参加された著名な研究者の方々からも意見を頂きました。今後より一層の研究の推進に役立てられることでしょう。

第95回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、11月20日(水)、環境総合館レクチャーホールにおいて第95回防災アカデミーを開催しました。

今回は、廣井 悠同センター准教授による「東日本大震災と地震火災」と題した講演が行われ、91名の参加がありました。廣井准教授から、東日本大震災ではビル火災、コ



会場の様子

ンビナート等産業施設火災、大規模市街地火災など多種多様な火災が発生したこと、その中でも特に津波火災による被害が甚大であったことが紹介されました。津波火災は、燃料タンク、船舶、車などが水面で着火した後、津波の浸水域に漂流して、大規模な市街地火災や山火事を引き起こすことや、津波火災の現場周辺は津波漂流物が散乱しており、消火活動が困難になる、などの詳しい説明がありました。

その後、現在の都市が火災に対して安全になっているかというテーマで、火災被害が甚大であった関東大震災の時と比べて、木造住宅率の低下などの理由から、地震時の延焼のしやすさは低減するが、ポンプ車などの消防力が不足することも地震時は考えられるため、普段からの防火対応や危険物管理が極めて重要となるとの話がありました。

会場からは講演内容を踏まえ、活発な質疑応答が行われました。